

＜今日の説教のポイント 創世記 46 章 28 節～47 章 31 節＞

「めでたし、めでたし」で終わらない深さを持つヨセフ物語！

① (7) ヤコブがファラオを祝福した?! — 聖書の祝福とは

「それから、ヨセフは父ヤコブを連れて来て、ファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオに祝福の言葉を述べた」(7)。ファラオがヤコブを祝福したのではなく、ヤコブがファラオを祝福したというのです。実は、この「祝福」は創世記のキーワードであり、神様が創造物(1:22, 28)やアブラハム、そして全ての民(12:2, 3)を祝福されたのと同じ祝福です。では、その祝福はどんな内容なのでしょう？

②ヤコブは自分の人生を良くなかったと思っている？ そうではない！

この後ヤコブは自分の人生を振り返って、労苦に満ちていたと嘆いているように見えます、「わたしの生涯の年月は短く、苦しみ多く」(9)。確かに、自分がしたことで郷里から逃亡しなければならず、多くの愛する家族を先に亡くし、苦労の多かった人生でしたが、この後、子どもたちを「祝福して(!)」人生を終えます(48-49 章)。また、ヤコブは神様が与えて下さった地にこだわり、かたくなにエジプト行きを拒み続け、ヨセフは皆をエジプトに連れて来て助けたいと思いましたが、ヤコブはヨセフと再会できて、「わたしはもう死んでもよい」(46:30)と言い、エジプトではなく先祖たちの墓に葬ってくれと祈って人生を終えるのです(29-31)。色んなことがあった人生ですが、父祖たちに示された神様の約束の中に入れられていることを大切に覚えて生きたのです。ヤコブとヨセフの思いの違いは小さくもあり、また大きくもあるのです。

③ヨセフもまた問題あり — 出エジプトにつながるヨセフの政策?!

47 章の後半は、世界中で飢饉が続く中で、ヨセフが行った政策がこの世的には見事に成功したことが記されています。でも、何か変です。まるでヨセフがエジプト人になったようであり、多くの者が王国の奴隷となって生きようになる原因譚のような話です。そして実際、出エジプト記 1 章のイスラエル人が奴隷となって苦しんでいる話につながっていくのです！ ヨセフ物語の話は深いです。「助けられてよかった、よかった、神様の導きのおかげだ」と思って終わる話ではありません。人生には色んなことがあるが、信仰者は神様の「祝福」の中に置かれていることを覚えて生きることが大切なのだ、と教えられる話なのです！